

ひきこもり実態調査について

1 目的

「8050問題」が社会的な問題となり、ひきこもりなど社会的に孤立している方への支援が必要とされる中、新型コロナウイルス感染症の影響により、さらにひきこもり状態にある方が増加することも懸念されている。

豊橋市では、各課で相談事業等のひきこもり支援を実施しているが、市内のひきこもり状態の方については、全市的な実態の把握がされていなかったため、ひきこもり状態にある方及び家族の生活状況や、ひきこもりに関する相談機関等の利用状況、希望する支援等を把握し、今後のひきこもり支援施策の基本資料とすることを目的とする。

2 「ひきこもりの状態にある方」の定義

おおむね15歳から64歳までの方で、次に該当するような方を「ひきこもりの状態にある方」とします。

①仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態の方

②仕事や学校に行かず、時々買い物などで外出することはあるが、6か月以上続けて家族以外の人との交流はない方

※ただし、ひきこもりの原因が明らかに障害（知的・身体・精神）や疾病による場合は対象から除く。その判断が難しい場合は、「ひきこもり状態にある方」とする。

3 調査対象者

- (1)「ひきこもり状態にある方」本人（経験者を含む）及びその家族
- (2) 民生委員児童委員

4 調査期間

令和6年9月～10月

5 調査方法

- (1) 本人や家族への調査について（別表参照）

関係機関より郵送や手渡しによる配布・回収を行う。調査票記入だけではなくWEB上の回答ページからも回答可能とし、対象者はどちらか選択し回答する。

（ひきこもり支援に関わる関係機関・団体において相談支援を行った方を対象に、当該関係機関・団体からアンケート調査票を配布（または郵送）し、配布物に同封する返信用封筒により回答を行う。匿名による回答としている。なお、同居家族にも同時に調査を実施する。）

- (2) 民生委員児童委員への調査について

民生委員児童委員会長連絡会にて配布し郵送にて回収。

(市内の民生委員児童委員へのアンケート調査を実施。民生委員児童委員が、担当する地域において、新たに調査を行ったものではなく、日頃の活動を通じて把握(伝聞や推測を含む)している範囲の情報に基づき回答する。)

6 協力機関

(1) 本人または家族への調査

- ・ 行政機関
(福祉政策課、生活福祉課、こども若者総合相談支援センター、健康増進課)
- ・ 地域包括支援センター
- ・ 障害者相談支援事業所(委託)
- ・ ひまわりの会
- ・ NPO 法人 いまから
- ・ 一般社団法人 パーソナルラボ 東三河支所
- ・ NPO 法人 てら
- ・ とよはし若者サポートステーション
- ・ Clubhouse WANATH
- ・ NPO 法人 たすけあい三河

(2) 民生委員児童委員への調査

- ・ 民生委員児童委員

7 調査結果の集計・分析

単純集計をはじめ、性別や年代などのクロス集計を行い、ひきこもり状態にある方の把握、ひきこもりの長期化を防ぐための適切な支援を検討するための分析を行う。

【一例】

(1) 当事者

- ・ ひきこもりのきっかけから、ライフステージ別の必要な支援
- ・ 当事者が相談をしたいと思える相談先
- ・ 利用しなくなった理由や相談しない理由から支援ニーズを探る

(2) 経験者

- ・ ひきこもりのきっかけから、ライフステージ別の必要な支援
- ・ 回復につながる相談先
- ・ 相談先に望むこと
- ・ 誰を相談先として頼りにしているのか

(3) 家族

- ・ 「親の年齢」×「不安に思うこと」の分析から、本人や家族の年代によって不安なことが変化してくるか

- ・誰を相談先として頼りにしているのか
- ・利用しなくなった理由や相談しない理由から支援ニーズを探る

(4) 民生委員児童委員

- ・ひきこもりのきっかけから、ライフステージ別の必要な支援
- ・民生委員が把握している当事者の年代分布及び人数
- ・本人の年代によって問題点に変化してくるか
- ・民生委員が思う問題点

〈別表〉
調査の流れ

